

日本結核病学会北陸支部学会

—— 第83回総会演説抄録 ——

平成25年11月9・10日 於 ボルファートとやま（富山市）

（第72回日本呼吸器学会
第57回日本呼吸器内視鏡学会 と合同開催
第42回日本サルコイドーシス学会）

集会長 柴田和彦（厚生連高岡病院腫瘍内科）

—— 一般演題 ——

1. 治療に難渋した高齢者結核性膿胸の1例 °谷内 毅・斉藤 裕・矢鋪憲功（厚生連高岡病胸部外）藤田 健太郎（同内）堀地 悌（同放射線）

症例は89歳男性。結核性胸膜炎治療後約50年を経て再燃し、皮膚瘻を伴った結核性膿胸に対し計4回の手術を施行した。胸水の性状のため術前に正確な膿胸腔の拡が

りを評価することが困難であった。また、手術では臓側胸膜損傷を極力避けることに注意した。経過中に培養検査で結核菌が一度も検出されておらず、活動性の結核感染であったかどうかは不明であった。現在、皮膚瘻からの少量の無菌性排膿があり、引き続き治療中である。